

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 440 号	氏名	竹下 茂之
学位審査委員	主査	川上 純	
	副査	上谷 雅孝	
	副査	下川 功	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究の目的は、分岐鎖アミノ酸高含有経口栄養剤の肝硬変を有する肝細胞癌患者に対する、肝動脈塞栓術（TACE）後の肝予備能低下に与える影響を検討するもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 肝細胞癌の治療で入院し、TACE が選択された 56 症例を対象とし、分岐鎖アミノ酸高含有経口栄養剤アミノレバン EN を投与された 28 症例と、投与されていないコントロール 28 症例を用いている。TACE 前後での臨床検査値、入院期間、生存期間を比較検討し、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、アミノレバン EN 投与群では入院期間、全生存期間、無治療生存期間に関しては有意な影響はなかったが、総蛋白とアルブミン値の低下、総コレステロール値の低下、アンモニア値の上昇を有意に抑制することが明らかとなった。これらの結果は分岐鎖アミノ酸高含有経口栄養剤投与が TACE 後の肝予備能低下を改善する可能性を示し、今後の肝硬変を有する肝細胞癌患者に対する肝動脈塞栓術の治療研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は肝硬変を有する肝細胞癌患者に対する肝動脈塞栓術治療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			